

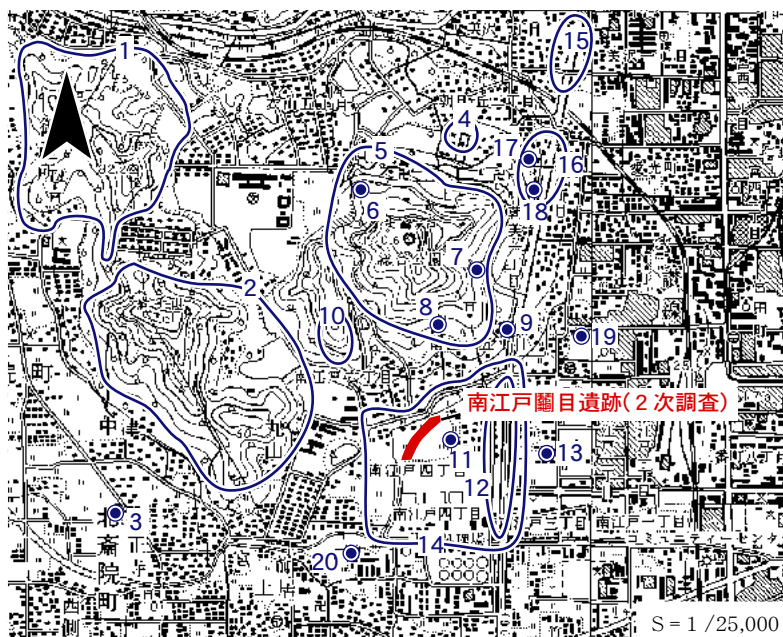
みなみえどくじゅめ

南江戸鬮目遺跡(2次調査)

事業名 宮前川埋蔵文化財調査
委託者 愛媛県(松山地方局)
受託者 (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
面積 3,550m² (遺構面2面)
期間 平成13年6月～平成14年3月
所在地 松山市南江戸

No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
1	御産所古墳群	墳・中	11	南江戸鬮目遺跡(1次調査)	中
2	岩子山古墳群	弥・墳・中	12	松環古照遺跡	弥・墳・中
3	北斎院地内遺跡	中	13	古照ゴウラ遺跡	墳・中
4	朝美遺跡	弥	14	古照遺跡	弥・古・中
5	大峰ヶ台遺跡群	縄～中	15	美沢遺跡	弥・中
6	朝日谷古墳	墳	16	親和園前遺跡	弥・古・近
7	辻遺跡	弥・墳	17	朝美澤遺跡	弥
8	大宝寺	中	18	澤遺跡	弥・古
9	南江戸桑田遺跡	近	19	辻町遺跡	墳
10	客池古墳群	古	20	南斎院土居北遺跡	中

※時代区分 縄・・・縄文 弥・・・弥生 墳・・・古墳
古・・・古代 中・・・中世 近・・・近世



周辺の遺跡位置図

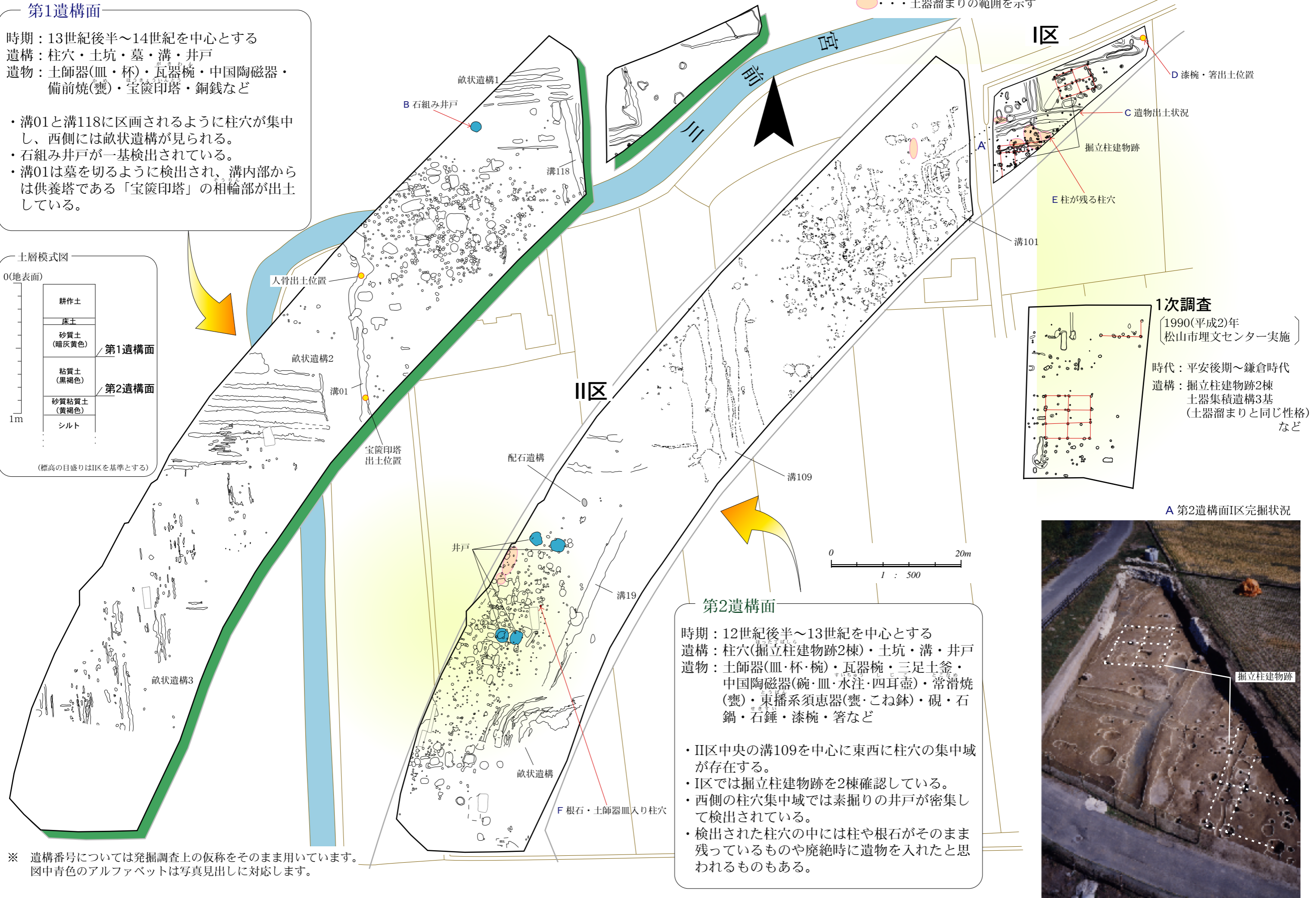
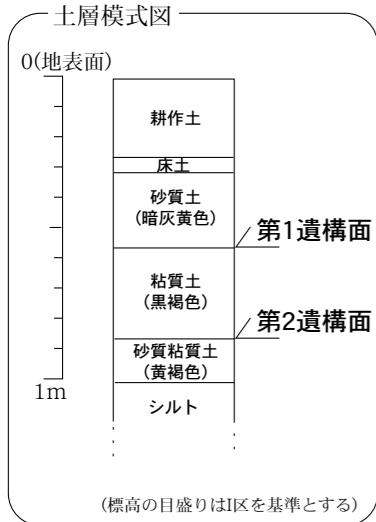


I区土器溜まり

第1遺構面

時期：13世紀後半～14世紀を中心とする
 遺構：柱穴・土坑・墓・溝・井戸
 遺物：土師器(皿・杯)・瓦器碗・中国陶磁器・備前焼(甕)・宝篋印塔・銅銭など

- ・溝01と溝118に区画されるように柱穴が集中し、西側には畝状遺構が見られる。
- ・石組み井戸が一基検出されている。
- ・溝01は墓を切るように検出され、溝内部からは供養塔である「宝篋印塔」の相輪部が出土している。

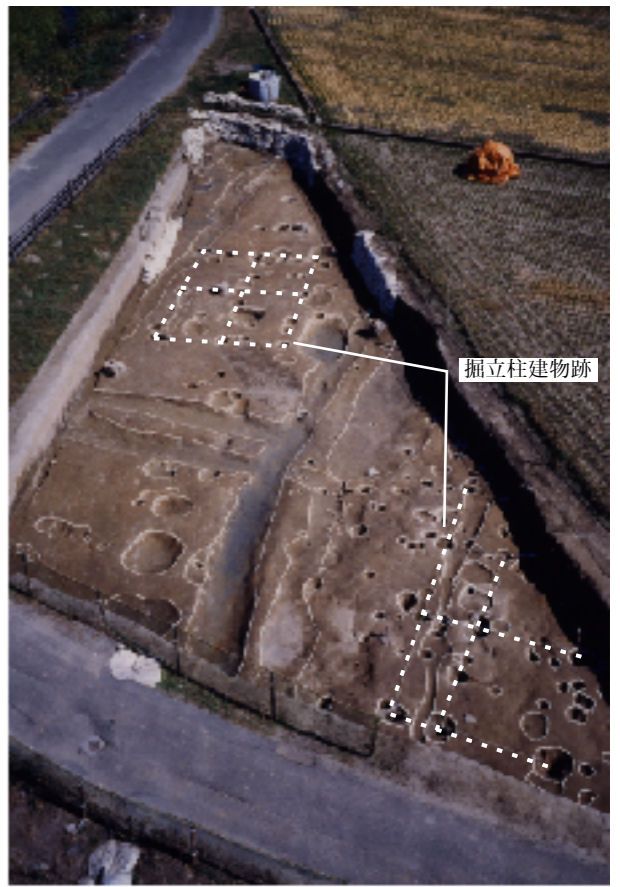


1次調査

(1990(平成2)年
松山市埋文センター実施)

時代：平安後期～鎌倉時代
 遺構：掘立柱建物跡2棟
 土器集積遺構3基
 (土器溜まりと同じ性格)
 など

A 第2遺構面I区完掘状況



第2遺構面

時期：12世紀後半～13世紀を中心とする
 遺構：柱穴(掘立柱建物跡2棟)・土坑・溝・井戸
 遺物：土師器(皿・杯・碗)・瓦器碗・三足土釜・中国陶磁器(碗・皿・水注・四耳壺)・常滑焼(甕)・東播系須恵器(甕・こね鉢)・硯・石鍋・石錘・漆碗・箸など

- ・II区中央の溝109を中心に東西に柱穴の集中域が存在する。
- ・I区では掘立柱建物跡を2棟確認している。
- ・西側の柱穴集中域では素掘りの井戸が密集して検出されている。
- ・検出された柱穴の中には柱や根石がそのまま残っているものや廃絶時に遺物を入れたと思われるものもある。

※ 遺構番号については発掘調査上の仮称をそのまま用いています。図中青色のアルファベットは写真見出しに対応します。

◇主な遺構の数

第1遺構面：柱穴747、土坑67、溝7、井戸1、
土坑墓1、畝状遺構3

第2遺構面：柱穴827、掘立柱建物跡2、
土坑165、溝41、井戸4

◇今回の調査から考えられること

- 集落の規模、土地利用の在り方
⇒古照地域の中世遺跡の景観復元ができる。
- 中国陶磁器(平安後期～鎌倉期では質量ともに県内最多)
⇒集落の様相を考察できる。
- 土器溜り(完形の土師器が大量に出土)
⇒近隣に土師器生産施設の存在を想定できる。

【第1遺構面】

B 石組み井戸



写真はすり鉢形の石組み井戸です。第2遺構面からも4基の井戸(素掘り)を検出しています。当時の生活においても水の確保が重要な要素であったことが分かります。

【第2遺構面】

C I区遺物出土状況(東から)



D 漆碗・箸出土状況



本遺跡からは、大量の遺物が集中して出土しています。その中心は土師器(杯・皿・碗)ですが、中国陶磁器の碗・皿・水注、また、漆碗や箸なども出土しています。これら供膳用の道具の他、調理用、貯蔵用の土器も出土しており、当時の食生活の様子をうかがうことができます。

E 柱が残る柱穴半截状況



F 根石・土師器皿入り柱穴



柱は廃絶時に地表面で切られる(左写真)か、抜き取られる(右写真)かのどちらかでした。右の写真は抜き取り後に地鎮のためと思われる皿を入れた痕跡が残っています。下に見える石は柱を安定させるために入れられた根石です。